

交流で絆と理解が深まる人間の復興

—地域再生に「よそ者」のパワーを—

震災後のアジア情勢を中心に

東日本国際大学経済情報学部教授

田村 立波

ヒト・モノ・カネが経済社会の営みを支えている。この三つの要素は、地域における震災復興のために、三者三様の働きを果たしてきているとともに、それぞれ多くの課題も抱えている。カネに関しては、地域再生に要する莫大な予算の確保や補助金の申請・運用、そして解決の緒を模索中の賠償金問題もその中の一つであろう。モノ、とりわけ福島県の農産物は、放射能による風評被害に見舞われ、科学的に安全だと裏付けられたにもかかわらず、今日もなお販売上の苦境に立たされている。ヒトの場合は、避難生活の長期化やコミュニティの再建、人口流出と地域再生のための人材確保とのジレンマなど、急を要する課題が山積している。

これらの問題解決無くして完全復興はないとも言えよう。その中で、最優先すべきはヒトをめぐる一連の問題である。

日本の経済学の祖とも呼ばれる福田徳三は、目の当たりにした関東大震災の復興を語る際に、「復興事業の第一は、人間の復興でなければならぬ」と主張している。これは約1世紀を隔てた今回の震災にも当てはまる言葉である。さらに、「人間の復興」について、福田氏は「大災によって破壊せられた生存の機会の復興を意味する」と解釈している。小稿では、そ

れを人間の交流という側面から見てみたい。

よく「よそ者、若者、ばか者」は地域活性化のキーパーソンと言われている。震災後の日本、そして被災地にも、中国や東南アジアから多くの観光客やビジネスマンといった「よそ者」が訪れるようになってきた。

昨年の震災直後には、数十万人の日本在住外国人が日本を離れたが、冷静且つ秩序正しく振舞う日本の国民に対する評価が広がるとともに、数多くの「よそ者」が、かつて第二次世界大戦の廃墟から世界第二の経済大国への奇跡的な復興を成し遂げた日本に抱いたのと同様の興味と関心をもって日本に戻ってきつつある。報道によると、今年6月の訪日外国人数は68万人にも及び、初めて震災前の水準を上回り、そのうち、中国やタイなどの東南アジア諸国からの訪問者数は過去最高を記録したということである。ここ数年、タイやベトナム、ミャンマーの経済発展には目を見張る勢いとポテンシャルが存在している。日本への憧れが震災の影響が見られないほど日本語の学習および留学ブームを牽引している。このような元気のいい国や地域から「よそ者」を如何にして取り込むかが課題となっている。

筆者が公私両面にわたって直接ないし間接的に経験した事例を二、三紹介してみる。

震災から2か月余り経った昨年5月に、本学の海外研修をかつて担当した中国の某大手旅行代理店の日本部長が日本行き観光ツアー再開のめどを模索するため来日し、いわきまで足を伸ばして、震災の爪痕がまざまざと残る地域を見て回った。6月には震災後初のツアー客を引率して関西を訪れた。

今年3月、台北駐日経済文化代表処代表が観光支援の一環として福島県を訪問したが、彼もまた観光客の受け入れ拡大に大きな期待を寄せていた。同月、文科省の補助金でアジアを主とする国・地域から50名の大学生が招かれて、福島市を皮切りに、相馬、いわきを訪問し、本学の留学生とも交流した。五感で掴んだ震災地の生の情報をそれぞれの母国に伝

えることになったはずである。

5月にベトナム南部にある工業団地の経営者がいわき市を訪問し、市内で経済関係者を対象にベトナムへの企業進出の誘致説明会を行った。同年7月、本学の台湾姉妹校から2名の大学生が短期研修のためいわきを訪れたが、ホームステイしたり企業で農作業を体験したりして短いながらもとても有意義な生活を満喫できた。

これらの事例は言うまでもなくいわきでの「よそ者」との交流のごく一部の例でしかない。このように、点から面へ「草の根」の交流が広がり、それらがやがて互いに結ばれて新たな交流が生まれ、地域の復興および活性化がより一層期待されることになる。

地域においては、海外からの「よそ者」を首を長くして一方的に待つのではなく、いろいろなきっかけ作りにも取り組んでいる。10月にはいわき市で環太平洋舞踊コンサートが企画されており、海外から多数の参加が期待される。そのほかに、アメリカや中国への訪問団も官民連携により実現に向けて調整中だという。何より人心を鼓舞するのが、来年のプロ野球オールスター戦がいわきで開催されることになったということである。その際に多くの野球ファンが押し寄せてくるに違いない。

県産の桃がバンコクのデパートの店頭に並び、県内の企業が相次いでミャンマーやタイに進出を果たす。このようなモノ・カネの移動が必ずやヒトの交流につながる。またつながるようにならなければならない。ヒトの交流により、心が通じ合い絆と理解が深まる。「よそ者」が地域復興の「オールスター」になることを願いつついわきの未来に思いを馳せる。